INFORMATION [期間：平成26年]

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金沢大学十全医学会 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39674

INFORMATION

【期間：平成 26 年】

神経分子標的学セミナー

演題：脳細胞の再生の鍵を握る幹細胞
演者：松山知弘　先生（兵庫医科大学先端医学研究所　神経再生研究部門　教授）
日時：平成26年6月18日（水）18時から19時30分まで
場所：金沢大学医学類　第2講義室
問い合わせ先：金沢大学医薬保健研究域医学系　神経分子標的学（第3解剖）　堀　　修
Tel: 265-2162, mail: osamuh3@staff.kanazawa-u.ac.jp

松山先生は、これまでにマウス脳梗塞巣内に既報の成体神経幹細胞とは異なる神経幹細胞（傷害誘導性神経幹細胞: injury-induced neural stem cell; iNSPC）が存在することを報告されてきました。今回のセミナーでは、iNSPCが、虚血/低酸素のような脳傷害病態下で特異的に誘導される幹細胞であるため、脳傷害後の神経再生の鍵を握る神経幹細胞と考えられることを発表して頂きました。

第3回MRTプログラム・リトリート

第3回MRTプログラム・リトリートを開催。MRTプログラムとはMedical Research Trainingの頭文字をとったプログラムのことで、明日の医療を開拓する人材（研究医）を育成することをミッションとしている。このプログラムは、医学類の正式科目と並行して、希望する学生が授業の空き時間や夕方以降、休暇期間を利用して、各研究室で行われている研究・ゼミナール・論文講読会等に参加するものである。今回は第3回目のリトリートで今年度としては初回となる。MRTプログラム参加学生・関連学生、教員スタッフ、興味のある方々に広く開放して日頃の成果や今後の抱負を語りあう会となる。
日時：2014年7月1日（火）午後5時～午後7時
場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ
主催：医学類教育委員会

第23回日本がん転移学会学術集会・総会

本学会は、基礎・臨床・企業の研究者が力を合わせ、がん転移による死亡率減少を目指し、毎年7月に学術集会・総会を各都市で開催しており、各分野の研究者が一堂に会し、各々の視点から自由に意見を交換できるユニークな場として発展してきました。今回の第23回学術集会のテーマは、“がん転移を引き起こす微小環境の病態に迫る！”とし、①がん細胞の転移形質（継続主題）、②がん間質内での免疫寛容と転移、③がんの進展・転移における血小板の役割に関する3つのシンポジウム等を企画しており、活発な討論が行われるよう、鋭意準備を進めております。また、本会が、医学の進歩発展ならびに普及をはかり、広く社会福祉の貢献に繋がるものであると確信しております。

開催日：平成26年7月10日～11日
場所：金沢市文化ホール・金沢ニューグランドホテル
問い合わせ先：金沢大学大学院医学系研究科がん局所制御学　TEL 076-265-2362　FAX 076-234-4260
（金沢大学 消化器・乳腺・移植再生外科）
事務局長　伏田 幸夫

第27回 Neuroscience Seminar「新規創薬標的としての細胞内主要ATPase, VDP」

京都大学大学院　生命科学研究科・高次生体統御学分野　垣塚　彰 教授
平成26年9月11日（木）18時30分～ 19時30分金沢大学医学部F棟1階修士課程セミナー室

このたび、京都大学大学院生命科学研究科・高次生体統御学分野教授の垣塚 彰先生をお招きしてセミナーを開催致します。垣塚先生は、神経科学の分野では遺伝性脊髄小脳変性症の原因遺伝子を発見され、ポリグルタミン病の概念を提唱された方としてご高名ですが、最近は抗肥満・抗糖尿病作用をもつERRL1遺伝子の同定など、多方面で業績をあげられています。今回、学部学生の特別講義のために金沢にお越しいただく機会に御講演をお願いいたしました。大変興味深いお話を拝聴できるものと思います。どうぞお気軽に御参加ください。

Control of cortical development by the meninges

UCSFのSamuel Pleasure教授をお招きして脳細胞遺伝セミナーを開催。Pleasure教授は気鋭の神経幹細胞の若手研究者である。特に大脳形成期の神経幹細胞動態における髄膜の重要性を世界に先駆けて報告された。また海馬の神経幹細胞ニッチや細胞系譜の研究も幅広くされている。日本神経科学学会で来日される機会に、金沢でも御講演をして頂けることとなった。各研究室のスタッフはもちろんのこと、大学院生や学部学生にも広く開放して、最新の神経科学の研究成果を知る良い機会となる。

日時：2014年9月9日（火）午後5時－6時

場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

主催：金沢大学医学系脳細胞遺伝子学講座　　TEL：076-265-2365　　FAX：076-235-4274

脳・肝インターフェースメディシン研究センターシンポジウム

日時：9月11日（木）午後4:30 ～ 5:30

場所：金沢大学附属病院4階　CPDセンター

特別講演　「How autophagy protects the liver from steatosis when apoB synthesis and VLDL secretion are inhibited」

Henry N. Ginsberg, M.D.

Irving Professor of Medicine ／ Director, Irving Institute for Clinical and Translational Research Columbia University

連絡先：脳・肝インターフェースメディシン研究センター　環境応答学部門　太田嗣人　(076-265-2863)

日本解剖学会第74回中部支部学術集会

会長：井関尚一（金沢大学医薬保健研究域医学系・組織発達構築学）

会期：平成26年10月11日（土）～ 12日（日）

会場：金沢大学医学類G棟講義室

概要：日本解剖学会は、120年以上の伝統を持つ学会であり，全国で約2500名の会員を擁する。約350名の会員を擁する中部支部の学術集会は、9県16校の医学部・歯学部を有する大学が持ち回りで毎年開催してすでに70年以上になり、肉眼解剖学、組織学から細胞・分子科学まで広い分野にわたる発表が行われる。

International Symposium on Tumor Microenvironment---Crosstalk between host cells and malignant cells

日時：平成26年11月21日午後3時より（予定）

場所：金沢大学・自然研図書館・AVホール

内容：米国国立がん研究所のCancer and Inflammation Programのプログラム長であるGiorgio Trinchieri博士（IL-12の発見者として著名な研究者）をメイン・スピーカーとして招へいし、がん微小環境に関するシンポジウムを開催する予定である。その際に、がん微小環境に関連する研究に従事している、がん進展制御研究所ならびに医薬保健学総合研究科の4名の若手研究者にも研究内容を紹介していただく予定である。

主催：金沢大学がん進展制御研究所

共催：金沢大学医薬保健学総合研究科

日本学術振興会・二国間交流事業　「腸内細菌叢とケモカインとのクロストークによるがん病態制御機構の解明」

第3回金沢大学 子どものこころサミット

開 催 日：平成26年11月27日(木)～ 11月29日（土）※

開催場所：北國新聞 赤羽ホール（1階 北國新聞交流ホール）

世 話 人：金沢大学子どものこころの発達研究センター　東田陽博

子どもの発達障害に関する幅広い領域の専門家が集い、研究成果を発表すると共に、一般の方々に子どもの発達障害とその研究への理解を深めて頂く。

第3回目となる今回3日間のプログラムの特徴は、「新しい未来に向けて」。脳機能計測による発達障害診断技術開発、オキシトシン作用機序の最先端研究とオキシトシンによる自閉症治療の臨床研究や研究倫理などを取り上げます。

※詳細に関しては、Webで「第3回金沢大学 子どものこころサミット」と検索して下さい。